

国際交流員通信 ～大阪・関西万博特集～

ブラジル・ウガンダ編

問合先 自治振興課

10月13日祝まで開催されている大阪・関西万博に合わせて、市の国際交流員などの国のパビリオンを紹介します。今回は「ブラジル館とウガンダ館」編です。ぜひ、機会があれば、本市の姉妹都市のパビリオンに一度行ってみてください。

【ブラジル館（ナタリア通信）】ブラジル館は工事中に火災が発生したため、開幕から3日遅れて開館しました。ブラジルという国の文化、自然、それと経済的な可能性を国際的に広げる目標を持っています。入場したら、1～4mの白くて透明な空気で膨らんだ沢山の彫刻と出会えます。中に進むと、どんどん変化が起こります。照明で展示室がカラフルになったり、彫刻が伸びたり縮んだり、音楽が流れたりします。そして、もう一つの展示室があって、大きな画面でブラジルの自然、文化、ホスピタリティや多様性の映像を見ることができます。様々な装置と融合した音楽、光、デザインなどが相互作用し触覚的な体験をすることができ、誰でも色鮮やかな雰囲気に囲まれて、楽しめます。予約なしでも入場できます。



ブラジル館

▶万博を訪問した
国際交流員たち
(左：ナタリア)



【ウガンダ館（エマニュエル通信）】ウガンダは、万博に「The Empowering Lives (いのちに力を与える)」のサブテーマで参加しています。国別テーマは「ウガンダ-アフリカの真珠、持続可能な未来」です。ウガンダブースは、合計29カ国が出展するコモンズAパビリオンブロックにあります。貿易、観光、投資、文化の分野でウガンダを紹介するように設計されています。芸術品や工芸品、伝統衣装、太鼓、コーヒー豆、「オムウェソ」と呼ばれるボードゲームなどが展示されています。また、ウガンダには、世界のマウンテンゴリラの50%以上が生息していることから、観光産業を代表する実物大のマウンテンゴリラのぬいぐるみが展示されています。さらに、淹れたてのウガンダ・コーヒーを無料で提供していて、多くの人にウガンダ・コーヒーのユニークさを味わってもらうことができます。



ウガンダ館



▲ウガンダ館への市長訪問
(中：千代松市長、右：国際交流員のエマニュエル)

■相談の特徴
相談件数は826件で、前年度よりも119件減少し、65歳以上の人からの相談が約4割を占めています。販売購入形態別では、通信販売が最も多です。主な相談は、投資や副業といった儲け話のトラブル

販売購入形態	件数
通信販売	298
店舗購入	152
訪問販売	74
電話勧誘販売	31
その他無店舗	20
送りつけ	12
訪問購入	9
マルチ・マルチまがい	5

■センター利用状況
相談件数：826件
(苦情740件、問合せ86件)
申出方法：電話623件、来所202件、文書1件
被害救済額：22,811,728円(118件)が、センターの助言、あっせんで解決



令和6年度 消費生活相談状況

困った時は、消費生活センターに相談してください。

内容	件数
投資や副業を含むネット詐欺	113
なりすまし電話	45
健康食品	43
不動産などの賃貸サービス	38
化粧品	33
工事・建築・加工	28
携帯電話サービス	25
キャッシュレス決済関連	23
修理・補修	20

ルや、詐欺サイトに関するものです。また、SNSの広告をきっかけとする、健康食品や化粧品などの定期購入トラブルも後を絶ちません。購入前に、サイトの信用性、解約や返品について確認しましょう。

水漏れ修理や害虫駆除など、暮らしのレスキューサービスと呼ばれるものでは、ウェブサイト広告と乖離した、高額な作業代を請求されたという相談がありました。

さらに、十で始まる海外の電話番号から、通信業者や国の機関を騙った詐欺電話があり、架空請求を受けた、個人情報提供を伝えたという相談が急増しました。被害に遭わないためには、知らない電話に出ない、出たとしてもすぐに切電することが大切です。